

阿倍女郎の歌一首

五一四番

我が背子が 着せる衣の 針目落ちず こもりに
けらし 我が心さへ

中臣朝臣東人、阿倍女郎に贈る歌一首

五一五番

ひとり寝て 絶えにし紐を ゆゆしみと せむす
べ知らに 音のみしそ泣く

阿倍女郎の答ふる歌一首

五一六番

我が持てる 三つあひに搓れる 糸もちて 付け
てましもの 今そ悔やしき